

## ムツミ工業株式会社

「自ら考え、行動する、コミュニケーションをとる」  
人間力を向上し100年企業を目指す

9月初旬、名古屋市北区の本社を訪問しました。ムツミ工業株式会社は、自動車、家電、建材など様々な業種で使用される金型やその金型で製品製造する装置の制作、各種専用機の設計・試作、工法開発・製造支援などの事業を展開されています。超精密加工技術、システム設計技術やロボット化技術などを駆使して多くの製品・装置を作りだされ、かつ製造支援までされている先進企業とお見受けしました。

どうやってこれら多くの技術を取り込み、どういうアイデアで顧客の細かなニーズに応え、ユニークな製品を生み出せるのかなど、興味をもって伺いました。創業者の自主独立の精神が企業風土として根付き、部門間のコミュニケーションをうまく引出し、次世代を睨んだ各種教育に熱心に取り組まれておられ、ガッテン!した次第です。

### 【会社概要】

■社名	ムツミ工業株式会社	■事業内容	プレス金型および製造設備ラインの各種専用機械の設計・製作・試作・工法開発
■設立	1949年	■本社・名古屋工場	愛知県名古屋市北区瑠璃光町5丁目1番地 TEL(052)913-2111
■資本金	3200万円	■小牧工場	愛知県小牧市多気北町141
■社長	近藤 哲典		
■従業員数	100名		

### 創業事始

当社は、1949年近藤辰次がタイル用成型金型・油圧プレス・油圧機械・各種専用工作機等の製造販売を目的として創業。戦後の焼け野原に残った名古屋市中区今池内山町（現・千種区内山）で平屋二間を借り、工作機械はシェーパー、フライス、ボール盤の3台でスタートしました。1957年に受注増のため名古屋市北区に移転し、生産機械を増強し本格的に専用工作機械の生産を開始しました。1961年には小牧工場を開設、金型専門工場として生産を開始。1971年は国産NCフライス盤を、1984年にはCADシステムを業界に先駆けて導入し、家業から産業へ脱皮しました。以降、自社製品開発に拘り、創業時の地元の窯業関連の仕事から着手し、エレクトロニクス用から自動車関連市場へと業容を拡大してきました。2006年に社長を交代し、海外での売上げ比率が現在70%となり、世界各地へオンコール（on call）での対応力に更に磨きをかけ、グローバルな事業展開を行っています。



近藤 哲典 代表取締役



本社および名古屋工場全景

### 基幹となる技術・製品は

事業部として、金型事業部と機械事業部の2事業部からなり、相互に連携し互いの技術を出し合い、他社では真似のできないユニークな製品群を生み出しています。例えば、プレス機及びロボットラインを機械事業部にて設計・制作し、金型事業部にて金型を制作し、それらをパッケージ化したラインを提供する等

日本を動かす熱い夢、次代をゆさぶる技術…

そんなオンリーワン企業を「発見!地域の小さな巨人企業」と題してシリーズでご紹介します。

しており、ユーザーの要求する製品精度、タクトタイムそしてコストなどを一挙に解決しています。顧客と一つ一つ打合せを行い、最適な仕様にて設計製作することを心掛けています。塑性加工・カシメ・検査・搬送・組付・油圧・サーボ・切削等…様々な専用機を製作してきました。



トランスファー型プレス装置



成型用ロボットライン



工程中を流れるワークの傷検査装置

金型事業部では、順送型やトランスファー型などの各種プレス金型の設計製作及び試作、工法開発、製造支援などを行っており、特に順送型の型内でのタップ加工や、ボルト、ナットなどの他部品の組付けを行う順送複合型を得意としています。3Dを核としたモノづくりを基本としており、CATIAなどのハイエンド3次元CADソフトを使用して金型設計を行い、高速マシニングによる高精度加工、そしてテスト加工品を三次元測定機にて測定し、金型にフィードバックする工程をとっています。



プレス用順送金型



3Dを核としたものづくり工程

### 100年企業に向けて

創業以来、ドルショックなどの幾多の試練を乗り越え、リーマンショック時には「皆が少しずつ我慢しよう」、「絶えざるイノベーション継続が生きる道」を合言葉に全従業員のベクトルを合わせて克服してきました。明日に向かって、ISO推進活動はもとより、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）の成型機などを新規研究開発に取り組んでいます。「自ら考え、行動する、コミュニケーションをとる」ことを「人間力」として位置づけ、その向上を目的に、世代別教育を実施しています。若手社員には「若人教育」、中堅社員には人間力を磨く「あすなる会」、経営幹部候補生育成の場として世代交代を見越した「たけのこ会」で研鑽を積ませています。

### これからの発展のために…

2019年6月に創業から70周年を迎え、企業の更なる発展と永続を目指して「100年企業」となることを次の目標としています。単に優れた製品を作り出すだけでなく、ユーザーエクスペリエンスを重視したコトづくりを掲げ、「未来を担う生産・製造技術を発展させ続け、国境を意識しないモノ作りの連鎖を実現し、全世界の顧客に早く・安く・良いモノを作るコトを提供する」をスローガンとし、国内外のより広いユーザーの需要を満たすような製品づくりを進めていきたいと考えています。